

【専門科目領域/専門科目群/看護の統合と発展】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護教育論	NSP44_005	選択	1	4	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
小石川 好美	403	yoshimi.koishikawa	月曜日～金曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	学生自身の受けてきた教育を通して、教育とは何かについて考え、高等教育の原点としての主体的学習の意義と重要性を理解する看護師養成教育と看護継続教育の変遷と現状・法的基盤についての知識を得ると共に、看護学教育のカリキュラム、教育方法、学習方法、授業評価について理解し、日本における看護学教育のこれからのあり方について学ぶ。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 ( )				
学習上の助言	看護は専門職であり、常により良い看護を探索していくための自己教育力を高めることが求められる。教育とは看護学教育とはについて学び、学生自身の受けてきた教育体験を振り返り「教えることと学ぶこと」について文献やグループワーク、技術演習における患者体験を通して考える。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配布する。				
参考書	看護教育学/ グレグ美鈴、池西悦子 編集/南江堂/2018 人を育てる看護教育/見藤隆子/医学書院/1987 教育評価/梶田敏一/有斐閣双書/2010				
外部教材	必要時授業内で紹介する。				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	看護教育と看護学教育、看護を大学で学ぶことの意義について自己の考えを説明できる。		NS(1)～(5)		
②	看護教育の歴史的背景について説明できる。		NS(1)～(5)		
③	教育評価に関する自己の考えを他者に説明できる。		NS(1)～(5)		
④	自己の4年間の看護についての学びと課題を説明できる。		NS(1)～(5)		
⑤	自己の看護職としてのキャリア形成の展望と課題について説明できる。		NS(1)～(5)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	看護教育と看護学教育、大学で学ぶこと	講義	予習：これまでの看護学生としての学びを振り返り、記述する。	4	
2	看護学教育のカリキュラム、教育方法、学習方法、授業評価について	講義	復習：学びまとめる。	4	
3	看護基礎教育と継続教育、認定看護師、専門看護師など専門資格(特別講師の講義)	講義	復習：学びまとめる	4	
4	専門資格を持つ看護師の活動とキャリア形成の実際(特別講師の講義)	講義	復習：学びまとめる	4	
5	看護職としての学びを考える(技術演習の患者役を体験する)	講義	事前課題に取り組む 事後課題に取り組む	4	
6	看護職としての学びを考える(技術演習の患者役を体験する)	講義	事前課題に取り組む 事後課題に取り組む	4	
7	看護職としての学びを考える(技術演習の患者役の体験に基づく討議)	講義	事前課題に取り組む 事後課題に取り組む	4	
8	自己のキャリア形成の展望と課題	演習	事前課題に取り組む 事後課題に取り組む	4	
試	レポート課題で評価する。				

【専門科目領域/専門科目群/看護の統合と発展】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
総合力指標	知識・技術力	0	50	50	0	0	100
	思考・推論・創造する力	0	30	10	0	0	40
	思考・推論・創造する力	0	20	10	0	0	30
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	10	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	10	0	0	10
問題を発見・解決する力	0	0	10	0	0	10	
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法及び注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
レポート	①	✓	レポート課題については開講後に開示し、全体の50%で評価する。				レポートにコメントを付し、返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①	✓	講義や意見交換への取り組みの姿勢、参加態度について全体の50%で評価する。				授業内で総評を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
備 考							
他担当教員	なし						
教員の実務経験	科目責任者は、看護師として40年の臨床経験を有し、臨床実践と学問的な知識、技術を併せて教授する						
実践的授業の内容	基礎教育は学生が学習してきた経験を用い、継続教育は専門看護師や認定看護師、特定行為研修終了看護師のいずれかを招き、実践モデルとしての活度内容やキャリア形成について講義をいただく。の看護実践内容を事例として紹介することを予定している。						
その他	今後の社会情勢によってシラバスの変更があり得る。						